

宮代町郷土資料館だより

えんがわ

第47号

特別展

西光院 歴史と文化財

郷土資料館では、10月26日(土)から12月23日(月・祝)まで、特別展「西光院 歴史と文化財」が開催されています。

これは、本年が宮代町郷土資料館開館20周年にあたりますが、記念すべき節目として本地域の中心的な寺院である西光院の歴史や貴重な文化財について、西光院ご住職様をはじめ関係の皆様のご理解、ご協力のもとで開催させていただいたものです。

展示は、「古代の西光院」、「中世の西光院」、「江戸時代の西光院」、「明治時代以降の西光院」の各コーナーからなっています。それぞれの展示内容について、ご紹介します。

古代の西光院

西光院は、伝承によると奈良時代の僧行基菩薩の草創と伝えられており、「沓掛地藏」や「逆さ菩提樹」など行基にまつわる伝説も残されています。

平安時代末期、安元2年(1176)には浄土信仰



阿弥陀三尊象(安元2年 1176)

に基づき阿弥陀三尊象(国指定重要文化財、東京国立博物館寄託)が造られています。「定朝様式」と呼ばれる全体に穏やかで、ふくよかな丸みのある平安時代の特徴的な仏像です。この阿弥陀三尊象が納められていた阿弥陀堂は、昭和27年の火災で焼失して現在はありませんが、写真が残されており焼失前の様子を伺い知ることができます。それによると間口3間、奥行4間の寄棟造りの建物で、建築様式等から室町時代に建てられたものと推定されます。部材の一部「墓股」が残されています。



阿弥陀堂

中世の西光院

鎌倉時代の資料はありませんが、室町時代の長祿2年(1458)に阿弥陀三尊像が修理されています(阿弥陀如来坐像内墨書)。

一方、石川県笈岳から発見された永正15年(1518)の経筒や、五社神社の北側にあった雷電宮にかけてあったという天文22年(1553)年の鰐口には「光福寺」と記されており、当時は光福寺という寺号をもって呼ばれていたことが分かります。西光院という院号がはじめて登場するのは永祿7年(1564)以前のもものと推定される岩付城主太田資正判物(写)からです。このほか西光院あての永祿13年(1570)の北条康成書状、天正14年(1586)の北条氏房判物も残されています。



北条康成書状(永祿13年 1570)

このほか、宝篋印塔等の石造物や百間の領主である鈴木雅楽助の念持仏も残されています。

江戸時代の西光院

『新編武蔵風土記稿』には、西光院は中興開山日雄により新義真言宗に改めたと記されています。その日雄の弟子には、徳川家康の信任が

厚く真言宗智山派の総本山である京都にある智積院第3世を務めた日誉や、関東の触頭を務めた桶川市倉田の明星院の祐長がいます。

西光院は、天正19年(1591)11月徳川家康から寺領50石の朱印状が与えられ、以降歴代の将軍から発給された朱印状12通が残されています。あわせて、日誉の頃に拝領したと伝えられる「描表装」とよばれる手法で描かれた徳川家康画像や京都東山区栗田口で焼かれ栗田口焼の茶碗が残されています。



徳川家康画像



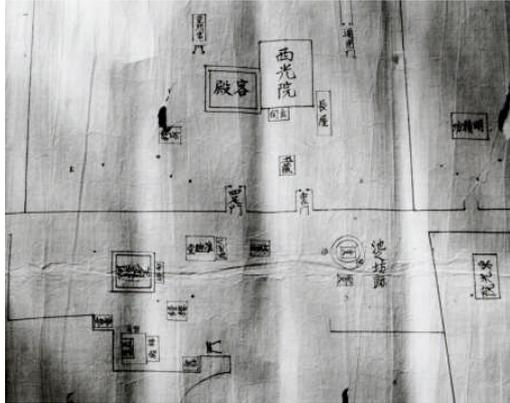
栗田口焼茶碗



徳川家康朱印状

また、寛政2年(1790)に寺社奉行あて提出された「建前図面並坪数等之進上書」があります。それによると、東の総門跡と西の総門跡の間が約1 kmあり、道に沿って西光院を中心として

東光院、池之坊跡、観音寺、弥勒院等の塔頭が並んでいたことが分かります。西光院はこうした塔頭を含め、末寺・門徒 27 か寺を数えました。



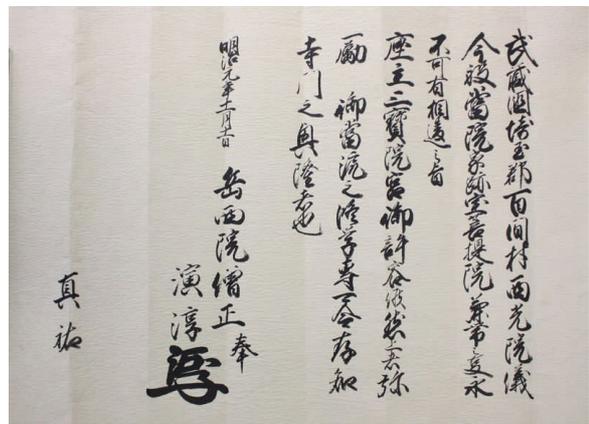
建前図面並坪数等之進上書 部分(寛政2年 1790)

明治時代以降の西光院

明治元年(1868)西光院は当時の本寺である醍醐寺三宝院から醍醐寺院家跡宝菩提院の兼帯を命ぜられています。それともない醍醐寺三宝院から「菊桐紋付紫幕」、「同紋付燈灯」が寄付され、「色衣」の着用、「赤網乗輿」、「金紋挟箱」の使用許可が与えられました。なお、明治18

年(1885)西光院は京都の智積院の末寺となっています。

一方、明治6~8年(1873~1875)に西光院を校舎として学校(現 百間小学校)がおかれ、明治7年には進修学校と称されました。その後、昭和14年(1939)から同18年まで粕壁女学校(現埼玉県立春日部女子高等学校)の「観心寮」が寺内に置かれました。昭和27年(1952)12月火災により客殿等が焼失しましたが、本堂を千葉県内の寺院から、庫裏は埼玉県知事公舎をそれぞれ移築し現在に至っています。



三宝院宮令旨(院室兼帯許可)(明治元年 1868)

講演会

特別展に関連し、11月9日(土)、17日(日)の2回、講演会が行われました。

11月9日(土)は、埼玉県立文書館の新井浩文先生により「西光院の歴史と文化財」と題して、ご講演を頂きました。西光院の立地やその歴史について、文化財保護委員会の調査で明らかになったことなどを含め、それぞれの時代の西光院の史料を紹介しながら、お話しをいただきました。結びに「宮代町にとって貴重な文化財の宝庫である西光院の歴史と文化財を子孫に伝えていきましょう」と述べられていました。

11月17日(日)は、大正大学名誉教授宇高良哲先生より「西光院出身の僧 日誉と祐長」と題してご講演を頂きました。ことに関東の新義真言宗の触頭を務めた倉田(桶川市)明星院祐長



11月9日の講演会の様子を中心に、真言宗の流れ、日誉との関係、修験についてなど幅広いご講演を頂きました。

いずれの講演も受講者からは「非常に分かりやすく楽しかった」との声が多く聞かれました。

次回の展示は季節展「おひなさま」です!

資料館では、毎年2月の半ば頃から4月にかけて、旧加藤家住宅におひなさまを展示しています。毎年楽しみに来館して下さる方も多く、ご好評をいただいております。また、大切な人形を資料として寄贈して下さる方もあり、収



前回の展示風景（「宮殿づくり」のおひなさまです。）

蔵品としてのおひなさまも年々増えつつあります。

これまで何度か企画展として「おひなさま」の展示をおこなってきました。例年開催を希望される声も届きましたことから、昨年度より季節展「おひなさま」と

して、毎年この時期に開催させていただくことにしました。

今年度も、平成26年1月5日（日）から3月9日（日）まで開催いたします。

展示するおひなさまは、これまで資料館に寄贈されたおひなさまの中から、段飾りのおひなさまを中心にいくつか展示します。装束やお顔など多少の違いはありますが、いずれも華やかな雰囲気を持ち、その人形が贈られた子どもの幸せを願う想いが込められたものです。展示室にいくつものおひなさまが並ぶ様子は、大変華やかな雰囲気になります。

期間中の休館日は1月6・14・20・27日、2月3・10・12・17・24日、3月3日となります。

寒い時期ではありますが、皆様お誘いあわせのうえお越しくださいますよう、心よりお待ち申し上げます。

資料館日誌抄

- 7月13日 企画展もったいない（10月20日まで）
- 9月19日 星谷遺跡試掘調査
- 4月26日 中東遺跡試掘調査
- 10月23日 中寺遺跡発掘調査（11月2日まで）
- 10月26日 特別展西光院歴史と文化財（12月23日まで）
- 10月31日 宿源太山遺跡試掘調査
- 11月1日 中遺跡試掘調査
- 11月7日 宮代台文化祭職員派遣
- 11月9日 西光院の歴史講演（29名）
- 11月17日 西光院出身の僧日誉と祐長講演（35名）

資料館寄贈者名簿

（敬称略、順不同）

中村克己（民具）、島村春江（文書他）、飯塚信利（板碑他）、萩原富子（刀剣他）、斉藤勘五郎（民具）、松井俊雄（民具）

宮代町郷土資料館だより えんがわ 47号

発行日 平成25年11月29日

発行 宮代町郷土資料館

郵便番号 345-0817

住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

電話番号 0480-34-8882

H P <http://www.town.miyashiro.saitama.jp>